



## ～高山植物の開花時期を決めるのは？～

夏山を彩る高山植物。その開花時期を決めているのは、気温？、日照？それとも…？

多雪を特徴とする日本の高山生態系では、融雪時期が高山植物の開花時期をはじめとする生物季節（フェノロジー）を左右する要因となることが知られています。そのため、高山帯の気候変動と生態系のモニタリングにおいては、融雪時期を観測することが大変重要となっています。

環境保全研究所と国立環境研究所では、山の雪融けを観測するため、県内各地に自動撮影カメラを設置しています（<http://db.cger.nies.go.jp/gem/ja/mountain/>）。このうち、中央アルプスの極楽平カールでは、2012年以降、年間を通じて1時間間隔で撮影を行っています。その結果から、2016年は、カメラ設置以降で最も雪融けが早く、平年と比べると、約40日も早く消雪していたことがわかりました（写真1・2）。

この雪融け時期の違いは、高山植物の開花時期にも大きく影響し、2016年はカール内のほとんどの高山植物で開花が30日～35日早くなりました。また、開花が早いと終花時期もほぼ同様に早まり、極楽平カールは、夏休みを迎える頃にはいつになく寂しいお花畑となっていました。今年、2017年は、平年並みの消雪時期となり（当初雪融けが遅れていましたが、6月に急速に進行しました）、高山植物も例年同様、7月下旬に見頃を迎えました。

一方、極楽平カール上方の稜線部で風当たりの強いところでは、元来積雪が少なく、例年、そして昨年も6月中旬には消雪しており、高山植物の開花時期も例年と大きな違いはありませんでした。このように雪融けや高山植物の開花フェノロジーは、年、場所ごとに大きな変動を示すため、気候変動の高山生態系への影響を適切に評価するためには多地点・長期間の観測が必要となることを痛感させます。

では、もう一つ、山に人を惹きつける生物季節、『紅葉』は何が決めているのでしょうか？それまた別のフカヨミで…  
(尾関雅章)



写真1. 2016年6月29日の極楽平カール



写真2. 2017年6月29日の極楽平カール